

## 事務事業評価表（建設事業等）

評価対象年度	平成 25 年度
1次評価日（主幹等）	26年3月20日
2次評価日（課長等）	26年3月31日

1 事業名	消防水利整備事業			コード	94105	
2 担当部課	部等	総務部	課等	消防課	作成者	千野 浩
3 事業概要	目的体系	基本目標	自然環境と暮らしが調和した、安全・安心なまち			
		政策	安全・安心な暮らしの確保	施策	消防・救急体制の充実	
		予算科目	消防水利整備事業費	業務委託	一部委託	
		実施義務	あり（義務的・標準的事業）	国県補助	なし	

## ●事業の実施内容（D0）

4 事業の概要等	*対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）		
事業の概要 （簡潔に）	地域住民の火災による被害を最小限に抑えるため消火栓、耐震性貯水槽の設置を図り消防水利基準の充足率を高める。		
目的	対象者	市内全域	
	意図	消火栓、耐震性貯水槽の設置	

5 事業の必要性	*事業を計画した当時、この事業が必要になった状況・理由		
火災による被害を最小限に抑える手段として必要がある。特に近い将来、大規模地震の発生が予想されている中で、耐震性貯水槽の整備は不可欠である。			

6 事業の全体計画	*各年度の取組計画			
予定全体事業費	410,500,000	円	事業期間	H11～H30
23年度まで	消火栓224基、耐震性貯水槽24基			
24年度	消火栓8基、耐震性貯水槽2基			
25年度	消火栓8基、耐震性貯水槽1基			
26年度以降	消火栓25基、耐震性貯水槽3基			

7 事業の実施内容	*各年度の進捗状況		
23年度まで	消火栓160基、耐震性貯水槽18基		
24年度	消火栓0基、耐震性貯水槽0基		
25年度	消火栓0基、耐震性貯水槽4基（H24年度から繰越明許）		
前年度の課題への対応	経済情勢の低迷により、計画的な整備が困難となっているが、更なるが、更なる優先順位の精査が必要。		

## 8 コストの推移

\* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	23年度まで(累計)	24年度	25年度	26年度(予算)
① 直接事業費	220,608,042	0	17,083,500	0
経常経費		0	17,083,500	0
臨時的経費				
* 臨時的経費の説明				
② 人件費		800,000	800,000	800,000
正規職員の人数(人)		0.10	0.10	
③ 合計コスト(①+②)	220,608,042	800,000	17,883,500	800,000
前年度比			2235.4%	4.5%
財源				
一般財源	220,608,042	800,000	17,883,500	800,000
内訳				
特定財源		0	0	0
* 特定財源の説明				

## ●事業の評価 (CHECK)

### 9 事業の進捗状況

区分	23年度まで(累計)	24年度	25年度	26年度(予算)
進捗率				
直接事業費の執行率	53.7%	53.7%	57.9%	
その他の進捗率				
* その他の進捗率の説明				

事業をとりまく環境変化	今まで	(これまでに生じた政治・経済・文化などの状況変化のうち、この事業に影響があったこと) 平成14年4月24日付で、東海地震に係る地震防災対策強化地域の指定を受けた。 経済情勢の悪化により財政状況が厳しく、計画全体が遅れている。
	今後	(26年度以降に予測される政治・経済・文化などの状況変化のうち、この事業の進行・完了に影響すると思われること) 経済情勢の低迷により、計画の見直しが必要となる。

## ●改善の内容 (ACTION)

### 10 今後の課題と対応策

今後の課題	(環境変化を考慮して事業を進めていく上で、26年度以降に課題になること) 消防水利の基準に基づいて整備を図っているが、厳しい財政状況の中で延伸となる。
課題への対応策	(上記の課題をふまえて26年度に実施する、具体的な対応方法) 事業計画自体見直しが必要。 (『第4次岡谷市総合計画後期基本計画』「消防水利施設の整備」に基づく見直しの予定。)

## ●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による26年度の優先度 *H24年度施策評価表より転記すること	B
-----------	--------	---	---